

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所もも		
○保護者評価実施期間	2025年10月 1日 ～ 2025年 10月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25人	(回答者数) 20人
○従業者評価実施期間	2025年10月 1日 ～ 2025年 10月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	感覚統合を目指すことに力を入れており、感触遊びやサーキット等を多く取り入れている。歩行も積極的に取り入れており、五感と全身を使って脳の発達を促すだけでなく、集団行動力を育めるようにしている。	感覚についての評価表を用いて、それぞれのお子様の感覚について評価・分析を行っている。発達段階や認知段階に合わせた関わり方や課題・目標設定をすることができている。	定期的に評価を行うことで、さらに成長に合わせた課題や目標設定を行っていきたい。
2	毎月、療育参観日を設定しており、歩行では前を歩くお子様の様子を見て頂くことや、音楽療法等を行っている様子を見て頂くなどの場を設定している。	療育参観の内容としても、普段の療育場面を見ていただくとともに、季節に応じたイベントや行き先を設定している。	療育参観日の設定が、参加率の関係で土曜日や祝日に行っているが、平日への設定も検討していく。
3	感覚統合や、基礎的な運動発達の促進を行うことで、コミュニケーション能力や認知・行動面でも発達を促進することができている。	お子様の成長段階や特性に応じて、理解しやすい声掛けや、視覚支援を用いている。	感染症、避難訓練、個人情報等の年に1回以上の研修の他に、月に2回療育に関する勉強会を設定している。職員全員で知識やスキルの向上に引き続き取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難訓練に対してすべてのお子様が参加したり、保護者様に具体的に認識されているわけではない。	利用曜日が決まっているお子様に対して、すべてのお子様に避難訓練に参加していただくには、同月に何回も避難訓練を行う必要があるが、お子様の特性上難しい。	今後も、曜日に偏りなく避難訓練を設定していき、多くのお子様に避難訓練を定期的に受けていただけるようにする。避難訓練を実施することや、行った報告を保護者様へ伝達していく。
2	利用回数が少ないお子様について、療育が積み重なりにくく、目標の達成や、日常への汎化がむずかしい。	他の療育機関に通われている方や、習い事をしている方は、安定して療育に通うことがむずかしいお子様もいる。	利用日を調整することや、他のお子様の欠席等により利用できる枠が確保できた際には、利用回数の少ないお子様に來ていたけるよう案内をしていく。
3			

保護者等向け 児童発達支援評価表

公表日：2025年12月26日

事業所名：児童発達支援 児童発達支援事業所もも

対象人数(保護者)25人 回答者数 20人 回収 80%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	①	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	1				
	②	職員の配置数は適切であると思いますか。	18	1		1		
	③	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15	1		4		ももの事業所の中には階段もありますがスロープを設置するなどの対策を講じております。建物の構造上、完全なバリアフリーを提供することは難しいですが、階段の使用時には職員が必ず付き添い、安全を確保しています。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	19			1		

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
適切な支援の提供	⑤	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20				・子どもの特性を把握した上で、こどもの こうしたい、やりたいを伸ばしてくれてい るのだろうかと感じます。 ・こどもが何かしらの達成感を持ち帰り、 興奮気味に足りない言葉を駆使して私 に伝えようとしてくれることが頻繁にあり ます。	
	⑥	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	20					
	⑦	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	20					
	⑧	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19			1		
	⑨	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19			1		
	⑩	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	20					
	⑪	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	9	3	1	7	自分の子どもは幼稚園に通っているの で、事業所外の子どもと活動する機会が あり事業所にそこまでの要求をしていま せん。	地域のお祭りに参加、地域の飲食店の 利用、公共交通機関を使った移動等行っ ております。今後も地域参加や地域交流 を行ってまいります。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	⑫	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20				とても丁寧に助かりました。	
	⑬	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	20					
	⑭	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	18	1		1	研修会や療育参観、保護者会があって有り難いです。ペアレントトレーニングに興味があるので、機会があれば、さらに有難いです。	家族支援プログラムは現時点では行っておりませんが、ご家族も参加できる研修会や情報提供の機会を保護者の皆様にも共有させていただいております。
	⑮	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	19			1	親側がアプリでメッセージをいつでも送信できるようにしていただいているのはありがたいです。体調や精神面でのちょっとしたことも時間をきにせずメッセージ機能が使えるので共有しやすいです。	
	⑯	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20				電話での相談も時間の都合などHUG上でのメッセージであらかじめやりとりできるので、電話をかけたり、かけ直したりがないのはありがたいです。	
	⑰	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20					
	⑱	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	15	3	1	1		療育参観として、月に1回休日に保護者様、お子様、ご兄弟様が一緒に参加していただけるイベントを設けております。今後も療育参観や保護者会、茶話会を通してご家族様同士の交流がしやすいよう工夫をしていきます。
	⑲	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	20				何度も相談に対応してくださり、大変感謝しております。	
	⑳	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	20					
	㉑	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	20					
	㉒	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20					

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
非常時等の 対応	㉓	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	16	1		3		各種マニュアルを作成しており、研修や訓練を行っております。今後は保護者の皆様に周知ができるよう、アプリ等を使い発信していくことを検討します。
	㉔	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16	1		3		定期的に避難訓練の実施を行っています。
	㉕	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18	1		1		
	㉖	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16	1		3	怪我や体調の変化等がある時はすぐに連絡をして下さるので安心しています。こちらも怪我や体調の変化はしっかり観察把握しておくべきと思わされます。	緊急性のある事故や大きな怪我は現時点で発生しておりませんが、発生することを想定してシミュレーションを行っています。今後も事故等が発生した場合の連絡手順を職員間で共有し、迅速な対応を行えるようにしていきます。
満足度	㉗	こどもは安心感をもって通所していますか。	20					
	㉘	こどもは通所を楽しみにしていますか。	16	4			・明日(今日)はある?行きたいよ!と寝る前や起床時に確認してくることがあります。 ・いつも楽しみに通所しています。 ・ももさんにいけない日はつまらないと言ってます。 ・子が楽しく通うのは前提だと思いますが、必要なスキルを学ばせていただいているのでこどもは楽しいばかりではない状態です。苦手なことにも向き合う機会 は本人にとって必要な過程だと思っており、親としては現状満足しています。	
	㉙	事業所の支援に満足していますか。	20				・とても満足しています。こどもがのびのびと楽しく活動し日々できることが増え自信を蓄え続けられているのは、ももの職員さん達のおかげです。いつもありがとうございます。 ・特性に沿ったきめ細やかな配慮をしてくださり、いつもありがとうございます。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
児童発達支援事業所もも		2025年12月26日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	・利用者様の特性によってはパーティションで区切る等の配慮を行うことができています。 ・パーティションは必要に応じて製作しており、よりお子様に合ったものを提供している。	今後も適切なスペースの確保を行うとともに、活動への持続性や、活動内容を明確し、安全に活動出来るように工夫する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0	・所定の人数より多めに配置しており適切に支援が行えるように児童に応じて配置している。今後も利用者様の特性等に合わせた職員の配置を行う。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	・特性に応じて情報伝達等を行うことができています。必要に応じた視覚支援を行っている。 ・部屋やドアにもシンボル等を貼っており、分かりやすい工夫をしている。	バリアフリーが可能なところはスロープを用意した。階段を使用する際は手すりを利用している他、職員が必ず着きそうようにし、転倒等ないように留意している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	・営業開始時、終了時に掃除と衛生点検を行っている。活動に応じて机や椅子を配置して活動や目的に合わせた空間を事前に確保している。	引き続き、清潔で心地の良い空間を提供していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	・個別の部屋や個人用のテント、パーティションを使用して個別の空間を作るようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0	・毎日全体の目標設定と個別の目標設定、振り返りを行っている。	・PDCA サイクルを行っているが、丁寧に行う為時間がかかることも多い。要点を絞っていく必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	・毎年の評価表を振り返り、改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	・引継ぎ時に意見交換をしており、その内容を業務改善につなげることができている。業務連絡ノートを活用し、周知ができるよう工夫している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	月に1回程度事業所内で研修を行うことができています。法人内でも研修を開催する機会が確保されている。個別で外部の研修を受講している。	外部研修を受ける時には職員の休みを利用して行っている。業務内で行うことでワークライフバランスを安定させていきたい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	行ったプログラムは毎日保護者に向けて配信しお知らせすることができている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	0	個々のアセスメントを行い、保護者のニーズを聞いた上で課題を客観的に分析し、事業所内で取り組むべきことを児童発達支援計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	児童発達支援管理責任者のみでなく、他の職員も一緒に会議を行い、作成することができている。	職員の全体的なスキルや手立ての向上をさらにしていきたい。

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	会議で様々な職員が意見を出し合って立案している。	チームで行うことができているが、療育の質の向上のため、今後も職員それぞれの知識が向上することやスキルアップが必要と考える。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	固定化しないよう工夫している。同じようなプログラムでも目的や目標に応じた内容に適宜変更し、固定化しないように努めている。またどの職員でも行えるよう工夫している。	特に運動では、運動学習を定着、汎化させることを狙って同じような動きや活動をすることがある。飽きない工夫を引き続きしていく必要がある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	個別に応じた支援計画と、集団活動の個別支援計画書の作成を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	職員間でかならず打ち合わせを行い、目標や目的の確認、内容、役割分担について話合うことができています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	振り返りが行えていることで次の支援に繋がっている。	勤務形態の関係で、その日に振り返りを行う職員は限られてしまう。引き続き、翌日に振り返りを行うことでどの職員も振り返りと共有ができるようにしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	記録をその日のうちに記録することを徹底している。	
関係機	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0		
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	提携している医療や、保育の現場と連携しながら支援を行うことができている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	保育所や認定こども園、幼稚園と支援内容等の情報共有を行うことができている。	保育園、幼稚園等の関係機関との連携や支援体制は整っていると感じる。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	就学前に保護者様に引継ぎ文章をお渡ししており、それを就学時に学校に提出していただいている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				

関 や 保 護 者 と の 連 携	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	3	2	地域の児童発達支援センターと連携をしている。情報交換や勉強会にも参加をしている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	0		地域のイベントに参加し、地域の子どもがいることもあるが、保育所や認定子ども園、幼稚園との交流は行えていない。今後、参加を検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	簡単ではあるが、送迎時に様子をお伝えすることや、必要に応じてアプリや面談を行うことで様子の共有をしている。	利用者様の安全確保の観点から、送迎時に長時間利用者様の状況を伝えることは難しいが、適宜電話や連絡アプリ等を利用して共通理解ができるよう努めている。今後も細目に保護者様と利用者様の様子を伝え合えるよう工夫していく。
保 護 者 へ の 説 明 等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	0	家族支援プログラムは行っていないが、ご家族等の参加できる研修の情報提供を行っている。	今後、家族支援プログラムを行っていくことができるよう検討する。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	契約時の説明を丁寧に行うことができている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	伝え方や知識を増やし、どの職員も同じように助言や支援を行えるようになりたい。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	0	保護者会を定期的に行っている。療育参観として月1～2回保護者様同士交流できる機会も設定している。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	迅速に対応することができるよう、業務量を調整している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	アプリにて、日々の活動の報告や、月間の活動の報告、行事予定の案内等をしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	個人情報の取り扱いについて定期的に話し合いをして対策ができている。 書類を持ち帰らない、無くさないような工夫もできている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	0		安全面確保の為、地域住民を招待する行事は頻繁には行っていないが、地域の行事に参加する等は行うことができている。また、地域住民も参加可能な祭りを12月に開催予定。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	研修を行っている。	



非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	面談等を行い、利用開始前にてんかんやアレルギーなどの情報共有を行っている。	情報共有や、対応について周知しているが、今後も定期的実践研修を行い、いつでも誰でも同じ対応ができるようにしていきたい。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	机や皿を分ける、おやつケースを分ける等の対策を行っている。アナフィラキシーが生じた場合にも迅速に対応するため、チャートを作成している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	些細なヒヤリハットでも事業所内で共有し、再発防止に向けて対策をしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	研修を行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	0	組織で決定している。契約時や個別支援計画書説明時に説明し、理解を得ている。	